

## 吹田市総合計画審議会 部会長会議 議事概要

- 1 日 時 平成 25 年 6 月 14 日（金）午後 1 時 30 分から午後 2 時 15 分まで
- 2 場 所 吹田市役所高層棟 4 階 特別応接室
- 3 出席者 別紙（出欠一覧）参照
- 4 配付資料 （1） 資料-1 吹田市総合計画審議会部会報告（案）  
（2） 資料-2 吹田市総合計画審議会部会での指摘・意見等一覧  
（3） 参考資料 吹田市総合計画修正案（ルート関連部分）

### 5 議事内容

#### （1） 部会報告について

##### 【質疑応答事項】 概要

会長：本日は、各部会の報告と全体会への資料の確認を行う。まず、各部会長に報告をお願いします。

第 1 部会長：＜第 1 部会についての報告＞

第 2 部会長：＜第 2 部会についての報告＞

会長：これからは意見交換を行う。

第 2 部会長：両部会で同じ指摘があるが、庁内でどう対応したか。

事務局：共通した内容については、庁内で共有し、各担当所管とヒアリングをしながら検討を進めている。また、事務局とのやり取りだけにとどまらず、特に他施策との連携のところでは、担当所管同士のやり取りを促すかたちで基本計画の修正作業を進めている。

第 2 部会長：総合計画が最上位計画であると意識しているのかという議論はされているのか。

事務局：仕事を進めていくときに、総合計画を見て各施策の目的に立ち返って仕事を進めていくということは大切であり、課題と考えている。

第 2 部会長：進捗管理の推進方策を書くときに読むことができるのではないか。

年 1 回は読むようにする。なぜ読んでいないか、どうしたら読んでもらえるのか考えるべきである。

事務局：進捗管理の仕組み等は議論できていない部分がある。長期的視点でどう見て、どう評価していくのか、協働の視点をどう見ていくのかが課題と考えている。

会長：今後の進捗管理の方向性をどこかに書いておくべきではないか。

第 2 部会長：ベースのところ書いておくことが考えられる。

会長：指標について、目標値の矢印と数字を区別して、説明できるのか。

事務局：市民意識調査の満足度評価については、指数化しているため矢印でもやむを得ないと考えているが、そのほかについてはできるだけ数値化したいと考えている。

第 2 部会長：満足度以外でも矢印になっている指標に対しての指摘だと考えるが。

事務局：できるだけ数値化していく。外部要因との関連性のあるものもあり、数値で表せないものも出てくるものと考えている。

会長：数値は守るものでなくめざすものと考えてもらいたい。達成できなかったときにアカウンタビリティ（説明責任）を問われ、そこで初めて外部要因を説明するということになる。

第 2 部会長：7 年の間でどう見るか。長期と見るなら理想を掲げ、短期と見るなら

実現できる目標に変えることを考えることになる。

事務局：市民と直接やり取りをしているところでは、実現の可能性をメインに考えている傾向があると感じている。

第 2 部会長：目標値は、実現すべき目標と考えるのか、めざす目標と考えるのか、そうした議論をし、共有しておく必要がある。ここをめざして頑張るといふ書きぶりにするなら、その考え方を評価する方とも共有しておくことが大切である。

第 1 部会長：指標についての考え方の整理が必要である。矢印はいいかげんと受け取られる危険性がある。読んだときに分かりやすい工夫が大切である。

第 2 部会長：施策の裏づけがあつてここまで伸ばすといえるのですが、例えば、平和祈念資料館の年間利用者数の目標値は現状の約 5 倍になっているが、根拠があるのか。

事務局：平成 24 年 9 月に南千里駅前へ移転開設したためである。

第 2 部会長：場所を移ただけで 5 倍に増えるのかという懸念がある。いろいろな工夫が必要であり、それがどこに書かれているのか。「2 重点取組と行政の役割」のようなところにきっちり書かれないといけないと思う。

事務局：目標数値の根拠をまとめて巻末に載せていこうと考えている。

第 2 部会長：例えば、平和というテーマを少し身近に感じられるように、楽しいイベントを盛り込むなど、それが方向性ということだと思う。

事務局：十分ではないかもしれないが、重点取組の中に利用者数を増やすという趣旨を示している。

第 2 部会長：そのような説明がないと伝わらないようではいけない。読むだけで分かる表現にすることが大切である。

第 1 部会長：過去の総計と今と比べて、時代背景等が変化しており、市民によるまちづくりが問われている。どこかにメリハリを出し、福祉、教育、市の意気込み等、今の時代にふさわしい新しい時代の総合計画の表現が必要である。

第 2 部会長：同じ言葉を使っている、方向が合っているのか議論が必要である。地方主権・分権をどう進めるかといった根本的な議論が必要である。時代が変わっているという認識を持つ必要がある。例えば、ソーシャルビジネスについて誰もタッチしていないというのが典型的な問題なのではないかと思う。「市民の時代」といいながら、市民は無償ボランティアでは、動けないので、きちんと稼ぐ中で協働の担い手になってほしいというのがソーシャルビジネスだと思う。そのあたりは、ベースでの議論になると思う。

会長：来週の審議会資料はこれで良いか。

両部会長：異議無し。

事務局：指摘のあった表現は修正する。

(2) その他  
特になし

区分	氏名	役職等	部会長会議 (6/14)
1号	今川 晃	同志社大学 政策学部 教授	○
	生形 貴重	千里金蘭大学 生涯学習センター長 (教授)	/
	島 善信	大阪教育大学 教職教育研究センター長 (特任教授)	○
	高橋 智幸	関西大学 社会安全学部 教授	/
	寺本 尚美	梅花女子大学 心理こども学部 教授	/
	久 隆浩	近畿大学 総合社会学部 教授	○
	松尾 貴巳	神戸大学大学院 経営学研究科 教授	/
	的場 智子	細川・的場・川田法律事務所 弁護士	/
2号	今泉 篤	公募市民	/
	木下 裕介	公募市民	/
	小林 俊範	公募市民	/
	辻本 武彦	公募市民	/
3号	坂本 富佐晴	吹田市文化団体協議会 会長	/
	瀧川 紀征	吹田商工会議所 副会頭	/
	立川 浩次	社会福祉法人 吹田市社会福祉協議会 会長	/
	田中 勲	吹田市PTA協議会 会長	/
	田中 脩	アジェンダ21すいた 幹事	/
	津田 緑	一般社団法人 吹田市医師会 理事	/
	永田 昌範	吹田市自治会連合協議会 会長	/
4号	榮野 正夫	大阪府政策企画部企画室 室長	/
出席委員合計			3名
事務局	副市長		/
	行政経営部		-
	総合計画担当		木下、岸本、津田、十川、稲見
	委託事業者		田口、小阪